

英米の俗信 (2)

小泉 直

外国語教育講座

The Superstitions of Britain and the United States (2)

Naoshi KOIZUMI

Department of Foreign Languages, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

はじめに

本稿は、英米に古くから伝わる俗信の起源と内容を明らかにすることを目的とする研究の一部を成すものである。小泉(2012)では、まず主要な国語辞典と英英辞典を参照しながら、「迷信」、「俗信」およびsuperstitionの定義を比較・検討し、社会生活にとって有害であると規定されている「迷信」ではなく、有害か無害かに関して中立的な「俗信」の方を以降superstitionの訳語として採用することにした。次に、英米における多様な俗信の中から、特に「日用品」に焦点を当て、22項目について解説した。本稿では、新たに「身体」と「数字」にまつわる俗信を取り上げる。

1. 身体

1.1 血 (Blood)

科学者が血液の化学的構成や特性を調べ始める前から、世界各地の俗信において、血が果たす重要な役割が認識されていた。多くの場合、それは血が魂の宿る場所であるという考えに基づいていた。魔法使いは血を魔法の最も強力な材料の1つと見なし、人を操ったり、悪霊を服従させたり、魔法円¹を描いたり、仲間入りの儀式で飲んだりするために使った。また、憑依された者を救うためのまじないや、病気や悪運から身を守るための飲み薬の中でも血が使用された。

悪魔との契約は血で署名された。また、魔女の力は実は血の中に宿っていて、その血を使い魔(familiar)²に吸わせるために使うと多くの者は信じていた。

失血は、かつて、2重に由々しいことと考えられていた。単に身体的な損失だけでなく、魂を失うことも意味していたからである。したがって、できるだけ早く止血することが重要であった。人々は、何世紀にもわたって、聖書の1節を唱えれば鼻血やその他の出血が止められると固く信じてきた。その他の止血法としては、血を流している人の首に鍵をくくりつける、背

中に錬鉄の鍵を滑り込ませる、傷に灰、クモの巣、あるいはヘビの皮を当てる、草の葉を2つに切り、それを十字の形にして傷に当て、唾をかける、傷におしっこをかけ、家畜の糞かミミズで擦る、傷にカタツムリ1匹を置いてから石1個を載せ、しばらくしてから石を元の場所に戻す、聖水をかける、などがある。

鼻血を止める方法としては、リネンの布を酢に浸し、それを燃やしてできた灰を鼻に吹きかける、3滴の血をコップの水と混ぜて素早く飲む、乾燥したヒキガエルの死骸を袋に入れて首にかける、2本の藁をこっそり患者の背後で交差させる、などがある。

血は時に媚薬として使われた。若い男性の右手の小指から血を1滴採り、それを若い女性の飲み物にこっそり入れておくと、その女性は1口でこの男性と恋に落ちると言われている。

もし血の巡りが悪ければ、6月24日(夏至祭)³の夜明け前に集められたクルミの葉を食べるとよい。

1.2 骨 (Bone)

血の場合と同じように、大昔の人々は骨が魂の最も重要な部分を含んでいると考えた。そのため、骨は丁重に取り扱われ、埋葬された骨を荒らすことは重大な結果を招くと恐れられた。しかし、逆に魔女や魔法使いにとっては、人間や動物の骨のかけらを手に入れることが大変重要であった。魔法やまじないはその材料として骨を必要とすることが多かったからである。

骨は様々な病気の治療に有効であると考えられた。そのため、頭蓋骨の粉末はてんかんの治療に使われた。骨の粉末を赤ワインに混ぜて飲むと赤痢が治ると言われた。人の骨のかけらが入ったお守りは胃の不調を治してくれると信じられた。また、共同墓地から大腿骨などの長い骨を取り出し、それに触れると熱が下がると言われた。

イギリスの俗信では、食事の時に食べた食べ物の骨を火に投げ込むのは極めて愚かであると力説されている。歯痛かりューマチ、あるいは、そのような類の病

気に必ず苦しむことになるからである。

1.3 頬 (Cheek)

頬の形は人の性格を表すと言われている。例えば、ふっくらとした頬は好色であることを表す。やつれた頬は控え目で頑固な気性を表す。たるんだ頬は平凡な知性を表す。ふくよかで丸い頬は気概のある賢い人であることを示す。こけた頬は意地の悪さと嫉妬を表す。一方、頬骨が張っている人は繊細で優しいと言われている。また、頬の皺は狂気の兆候である。もし頬が赤らんだら、それは誰かがその人の噂をしている印である。

一般に、えくぼは縁起がよいとされている。そのため、えくぼを天使や神の指紋と言う人たちがいる。しかし、その一方で、えくぼを悪魔の靴のかかとの印であると信じている人たちもいる。

1.4 耳 (Ear)

もし耳がひりひりするなら、それは誰かがあなたの噂をしている印である。ひりひりするのが右耳なら、あなたは褒められていることになる。もし左耳なら、悪口を言われていることになる。そのような時には、ひりひりする耳をつねるとよい。噂をしている人はすぐさま自分の舌を噛むことになる。

船乗りの間には金のイヤリングをつけていれば、溺死から守られるという言い伝えがある。また、耳たぶに穴を開けてイヤリングをつけると、視力が良くなると信じている人たちもいる。

耳の大きさと形は人の性格を表すと言われている。小さな耳は狭量さと利己主義の印である。大きな耳は寛大さを表すが、時に虚栄心を伴う。平らな耳は下品な性格を示す。四角い耳の人は高貴な魂の持ち主である。長い耳は知恵と長寿が際立っていることの印である。耳たぶにできる垂直の皺は心臓病があることを暗示している。

グロスターシャー（イングランド南西部の州）では、耳の痛みはカタツムリを捕まえて小穴を開け、その体液を耳に注ぐと治ると言われている。

おたふくかぜを治すには、黒い雌牛から取った綱を首の回りに巻くか、羊毛と熱い月桂樹の葉から作られたネックレスを身につけるとよい。あるいは、ミドリヘビの皮をはいでブランディーに浸け、それを耳の中に注ぐのもよい。同様に、猫か馬が飲んだばかりのバケツから水を飲むか、牛の尿を耳の穴に入れるのもお勧めである。

1.5 肘 (Elbow)

イギリスとアメリカの両国において、肘がかゆいと、近いうちに見知らぬ異性とベッドを共にすると信じられている。

尺骨の端 (funny bone)、つまり肘をぶつけると、強い痛みを伴うが、これは悪運に見舞われる前兆と考えられている。もし悪運を避けたければ、すぐにもう一方の肘を同じ強さでぶつけるとよい。

敵に復讐したいと思う者は、自分の肘を噛まなければならない。もし噛むことができれば、敵は雨でびしょ濡れになるか、雷に打たれて死ぬことになる。

1.6 邪眼 (Evil Eye)

昔から、悪魔の目すなわち邪眼を持つ人たちがいて、そのような人たちは、じっと見つめるだけで他人の健康や運命を悪化させることができると信じられてきた。特に、色違いの目、くぼんだ目、寄り目、やぶにらみの目を持つ人たちは邪眼の持ち主であるとして告発されてきた。また、独身女性も、眼差しが生理の血によって毒されているため、たいてい邪眼の持ち主であると信じられてきた。

結婚して1年未満の若い夫婦、妊婦、家畜、思春期の女の子、新生児、7歳以下の子供が特に邪眼の影響を受けやすいと考えられている。子供を邪眼の脅威から守るためには、その子供を毎朝数分間逆さまにつるすか、水の入ったたらいに隣家から借りてきた銀貨を1枚入れ、その水で体を洗うとよいと言われている。

もし邪眼を持つ疑いのある人に会ったら、その人が通り過ぎてしまうまで指で十字の印を作るか、その人が行ってしまったらすぐに地面に唾を吐くとよい。邪眼に対するお守りとしては、一片の鉄、鍵、蹄鉄が効果的とされた。また、小袋にカッコウチョロギ (betony) の葉と9粒の塩を入れて首にかける方法も勧められた。

邪眼除けとして、イングランドでは、青いビーズや「魔女の球 (witch ball)」として知られるガラス玉が使われた。また、漁師の船のへさきには目を象徴する模様が描かれた。イングランドとスコットランドでは、玄関の上や家畜のしっぽに赤いリボンが結びつけられた。

邪眼に対して強力な防御策となる手のしぐさが2つある。1つは「悪魔の角 (Devil's horn)」と呼ばれるしぐさで、まず右手の中指と薬指を内側に折り、次に親指をそれらの上に載せ、最後に人差し指と小指をまっすぐ伸ばして作られる。もう1つは「イチジクの手つき (fig sign)」と呼ばれるしぐさで、まず右手で拳を作り、次に人差し指と中指の間から親指を突き出して作られる。いずれのしぐさも邪眼で脅していると疑われる人物に向けられる。

1.7 目 (Eye)

目は人の性格を表すと言われている。小さな目は快活さと頭の良さの印である。もし目が丸ければ、弱くて愚かで理解が遅い人であることを表す。大きい目は怠惰で嫉妬深く狭量な性格を表す。中くらいの大きさ

で目が黒ければ、落ち着きがあつて世話好きで、しかも正直であることを示す。くぼんだ目の人は知的ではあるが、疑い深くて意地が悪い。目が飛び出ている球形であれば、世話好きであるが気まぐれである。

アメリカには、異なる目の色について次のような歌がある。

Blue-eye beauty, do your mammy's duty,
Black-eye, pick a pie,
Run around and tell a lie;
Grey-eye, greedy-gut
Eat all the world up.

青い目の美しい娘は母親の役割を果たし、
黒い目の娘は、パイをつまみ、
走り回って嘘をつく。
灰色の目の娘は、食いしん坊で、
世界をすべて食べ尽くす。

斜視の人と道ですれ違ふのは、相手が異性であれば縁起がよいが、同性であれば縁起が悪い。不運を避けるための救済法は、通り過ぎてしまった後、唾を吐くことである。

最近亡くなった人の目が閉じていなかったら、その人は追従者を探していると言われる。

右目がかゆいのは幸運の印であるが、左目がかゆいのは不運が近づいていることを示している。かゆみに対する治療法は、オニナベナ (teasel) の葉で集めた雨水、あるいは昇天の祝日 (Ascension Day)⁴ に集められた雨水で目を洗うことである。

ものもらいを治すには、金の結婚指輪で患部を優しく9回擦るとよい。また、生のニンニクの小鱗茎で擦る、あるいは雌牛の尿で目を洗うのも効果的である。中でも奇妙な治療法としては、玄関の呼び鈴を鳴らしておいて、ドアが開く前に逃げるといふものがある。

白内障を治すためには、猫の頭を焼き、病人の目の前でその灰を吹き飛ばすとよい。結膜炎は、ブドウの若芽の粉末を入れた水薬を点すと治ると言われている。目の上に冷たい子牛の肉を一切れ置くのも効果的である。

1.8 眉毛 (Eyebrow)

女性の眉毛が鼻の上で繋がっているのは、結婚する、しないに関わらず、幸せになる印である。別の言い伝えによると、眉毛が繋がっている人は、すべての仕事において運がよいとされる。これに反して、次のような2行連句⁵の俗信もある。

Trust not those whose eyebrows meet,
For in their heart they carry deceit.
眉毛が繋がっている人を信用してはならない、他人を騙そうと思っているから。
また、次のような2行連句もある。
If your eyebrows meet across your nose,

You'll never live to wear wedding clothes.

鼻の上で眉毛が繋がっていたら、
決してウェディングドレスを着ることはない。

かつてアメリカのある地域では、眉毛が繋がっているのは美人の印と言われていたが、別の地域では、オオカミ男か魔女の印と見なされていた。

1.9 足 (Feet)

スコットランドでは、足から先に生まれた逆子の赤ん坊には特別な力が備わっていて、患部を足で踏みつけてもらおうと、捻挫、腰痛、リウマチが治ると信じられている。また、生まれつき足の指が6本ある人は、幸せな人生を送ると言われている。

扁平足は不吉で、そのような足を持つ人と月曜日の朝に会うのは縁起が悪い。また、正月に扁平足の人が家の中に入ると、不運がもたらされる。しかし、逆に、足の甲の高い人が正月の朝に家に入ると、幸運に恵まれる。

イギリスでは、道を歩いていてうっかり地面で右足をすりむいたら、間もなく友人に会うと信じられている。しかし、もしすりむく足が左なら、失望が待っている。

もしはっきりとした理由がないのに足がかゆくなったら、すぐに予期せぬ旅に出かけることになる。

家に左足から入るのは縁起が悪い。

1.10 指 (Finger)

人の指の形は性格を表すと信じられている。短くて太い指は愚かさや不摂生を表す。長くて細い指は知的であると言われている。ただし、浪費家であることを示すという人もいる。曲がった小指は富の印である。人差し指が中指よりも長いと同じであれば、その人は不正直である。また、6本以上の指を持って生まれた人は生涯幸運である。

人差し指は「毒指 (poison finger)」として知られている。そのため、軟膏や治療薬を塗るために使ってはならない。しかし、左手の薬指には治癒力があると言われている。この指が直接心臓と結びついていると考えられているからである。

人差し指と中指を十字に交差させるしぐさは、幸運の印として、あるいは邪眼を追い払うしぐさとしてよく作られる。最もふさわしい場面は、共同墓地のそばを通り過ぎる時や悪意のない嘘 (white lie) をつく時である。

指差しには十分注意しなければならない。もし船が出航する方向を指差すと、その船は沈むことになる。また、人を指差すと、その人に邪眼を引きつけることになる。さらに、葬列を指差すと、指した人に死がもたらされる。同様に、太陽、月、星を指差する人は不運に見舞われる。アメリカの言い伝えでは、果樹を

指差すと果物が腐ると言われている。

1.11 指の爪 (Fingernail)

曲がった爪は欲深さの印である。また、中央部が盛り上がっている爪は、持ち主が早死にするとされている。爪の根元にある半月の大きさは人の寿命を表していて、大きいほど長生きである。多くの俗信において、指の爪の白い斑点は幸運の印と見なされている。一方、黒い斑点は凶運を意味し、黄色い斑点は死を暗示する。イギリスには、爪の白い斑点が示す意味について次のような歌がある。

A friend, a foe,

Money to come, a journey to go.

友だちができる、敵ができる、

お金が入る、旅に出かける。

この歌は、人差し指の斑点が新しい友だち、中指の斑点が新しい敵、薬指の斑点が富もしくは新しい恋人、小指の斑点が近いうちに旅に出ることを表している。また、この歌の中では言及されていないが、親指の斑点は贈り物がもらえることを意味するとされている。

爪は月曜日から火曜日に切るべきである。金曜日と日曜日に切るのは縁起が悪い。しかし、聖金曜日⁶に爪を切ると歯の痛みが消えると言われている。また、独身女性が夢の中で未来の夫に会いたいと願うならば、9回続けて金曜日に爪を切るとよい。

赤ん坊の爪は1歳になるまで切ってはならない。歯で噛み切って短くすべきである。さもないと大きくなってから泥棒になる。イングランドの北部では、右手の爪を左手で切ることのできる女性は結婚生活においてかかあ天下になると言われている。

船乗りは、嵐を引き起こす恐れがあるので、海にいる間は爪（あるいは髪）を切らない。

爪の切り屑は魔女が魔法をかけるための重要な材料となるため、その処分には十分注意する必要がある。魔法の役に立たなくなるように、3つに切り分けるか、唾をかけておかなければならない。一方、爪の切り屑は治療にも利用されてきた。病人から採って、一定の儀式に従って焼いたり埋めたりすれば、病気が治ると言われていた。

1.12 髪 (Hair)

髪質は性格を表すと考えられている。巻き毛は開放的で陽気な性格の印であり、直毛は卑怯で人を欺く気質を表す。また、巻き毛は縁起がよいとされたため、もし巻き毛になりたいと思うなら、パンの耳を食べるか頭にラム酒をかけることが勧められた。また、直毛の女性の額に突然2本の巻き毛が生えてきたら、夫に注意した方がよい。これは夫が長生きできない印である。

金髪の人は影響を受けやすい性格で、名誉や栄光を欲しがらる。黒髪の人は辛抱強く勤勉で世話好きである。赤毛の人は邪眼の持ち主で、気が短い。(赤毛に対しては常に偏見がつきまとうが、それはかつてイギリスに侵入した赤毛のデーン人と関係がある。)もし白髪が早く現れたら、それはその人が気まぐれで自慢屋である印である。また、白髪を抜くのは意味がないと言われている。同じ場所に10本生えてくることになるからである。

腕と手の甲が毛深い人は必ず金持ちになる。男性の髪の毛が額とこめかみまで伸びていれば、その人は長生きである。また、逆毛の持ち主は運がよいとされる。

周りの人に不幸をもたらすことになるので、自分で髪を切ってはならない。また、女性は兄弟が航海に出かけている間、夜に髪を切ってはならない。さらに、髪は月が満ちていく時に切るべきである。もし月が欠けていく時に切ると艶を失い、抜けることになる。

髪を切る曜日については、イギリスの田舎で今でも次のような古歌が歌われている。

Best never enjoyed if Sunday shorn,

And likewise leave out Monday,

Cut Thursday and you'll never grow rich,

Likewise on a Saturday.

But live long if shorn on a Tuesday

And best of all is Friday.

月曜日には髪を切らないのが最善であり、

月曜日と同様に避けた方がよく、

木曜日に切ると金持ちになれず、

土曜日と同じ。

火曜日に切ると長生きができ、

一番よいのは金曜日。

髪を火にくべた時に明るく輝いて燃えたら、それは長寿の印である。明るければ明るいほど長く生きられる。しかし、くすぶって燃えなければ、髪の持ち主が溺死することになる。

切った髪を鳥が見つけて巣作りに使ったら、頭痛に悩まされることになる。もしその鳥がカササギだったら、1年以内に死ぬことになる。

1.13 手 (Hand)

手は大昔の人々にとっての道具であったため、神秘的・心霊的な意味を持っていた。右手は神の手と見なされ、宣誓する時に使われた。一方、左手は悪魔と結びついていると言われた。

右手がかゆくなったら、近いうちにお金を受け取るか重要な知らせを耳にすることになる。逆に左手がかゆくなったら、予期せぬ支出でお金を失うことになる。かゆい左手を治したければ、すぐに木に擦りつけるとよい。

2人の人が同じたらいの水で手を洗うのは凶兆であ

る。すぐにたらいに唾を吐かないと喧嘩になる。

子供の手は1歳になるまで洗ってはならない。さもないと一生貧しいまま過ごすことになる。

左手で握手をするのは縁起が悪い。

3人の人が同時に握手を始めたなら、それはその人たちにとって幸運の印である。

2組の男女が腕を交差させながら握手をすると、予期せぬ結婚話が持ち上がる。

手が湿った人は好色な性向の持ち主である。一方、手が冷たい人は心が温かい。

1.14 唇 (Lips)

イギリスとアメリカの両国において、もし唇がかゆければ近いうちにキスされると言われている。舌打ちも同じ喜びへの誘いである。

1.15 ほくろ (Moles)

一般に、体の左側のほくろは縁起が悪いが、右側のほくろは縁起がよいと考えられている。

丸いほくろは幸運をもたらすが、長方形のほくろは不運をもたらす。また、額の真ん中のほくろは富をもたらす。さらに、首の後ろにほくろがあると絞首刑に科せられる危険がある。

女性は左胸にほくろがあると自分が望む男性を選ぶことができる。しかし、右胸にほくろが現れたら、貧困が待っている。

ほくろから生える毛は幸運の前兆である。

イギリスには、ほくろの場所について次のような古歌がある。

A mole on the arm
can do you no harm.

A mole on your lip
you're witty and flip.

A mole on your neck
brings money by the peck.

A mole on your back
brings money by the sack.

A mole on your ear
brings money year by year.

腕のほくろは害がない。

唇にほくろがあれば機転があつてすばしっこい。

首のほくろは枡でお金をもたらす。

背中のはくろは袋でお金をもたらす。

耳のほくろは年ごとにお金をもたらす。

1.16 鼻 (Nose)

鼻は息と密接な関係があるので、大昔の人々は生命の象徴として崇めていた。そのため、悪霊が体内に入つてこないように、お守りや輪型の装飾品で保護した。

人相学では、鼻は人の隠れた性質を明らかにしてくれると言われている。大きな鼻の持ち主は誠実でやさしい。上を向いた鼻の人は欲深く大胆である。長い鼻は勇氣と誇りを表す。平らな鼻の人は騙されやすく嘘つきである。鉤鼻の人は悪意を持った守銭奴である。毎日子供の鼻から毛を引き抜く母親は、その子に幸福な生活を保証してくれる。

むずむずする鼻は、論争、手紙の受け取り、あるいは新しい恋人を暗示している。鼻がかゆい時は願い事をするときよい。

鼻血は一般的に不吉の印である。もし鼻血が右の鼻孔から流れたら、家族の1人が重病になる。しかし、左の鼻孔から血が1滴だけ落ちたら、多額のお金を受け取ることになる。また、もし異性の前で鼻血が出たら、それは愛の告白である。

1.17 唾 (Saliva)

大昔の人々は唾液が自分たちの魂から生み出されると考えていた。それゆえ、唾を吐くことは神々へのお供えであり、返礼として加護を期待した。そのため、ほとんどの人は幸運を引き寄せるために唾を吐く。例えば、ボクサーは試合前にグローブに、木こりは仕事に取りかかる前に手に、漁師は網や釣り針に、賭博師はゲームを始める前に天井に向かって唾を吐く。また、新しい服は着る前に少しばかりの唾で湿らせておくとよい。徒歩で旅をする者は出発する前に右の靴に唾を吐いておくとよい。さらに、船乗りの言い伝えでは、風と共に唾を吐くと嵐がひどくならなくて済むと言われている。

邪悪な力に直面した時には、その影響から身を守るために、地面に3回唾を吐くとよい。髪の毛や爪の切り屑も魔法使いが魔法で使わないように、唾をかけておいた方がよい。子供が生まれたら、産婆はその子を守るために唾をかける必要がある。また、子供が幼い間は、褒め言葉を言われるたびに、その子の母親が唾を吐かなければならない。

誓いを立てながら唾を吐くのは、聖書もしくは十字架にかけて誓うのと同じ効力があるとされる。

唾液には治癒力があると見なされてきた。新約聖書には、キリストが土に唾を混ぜて泥を作り、それを盲人の目に塗って治したと記されている(「ヨハネによる福音書」第9章第6節)。多くの人は、いぼ、うおのめ、虫の刺し傷、あざ、しみなどを治すために患部に唾を塗る。ただし、唾は絶食中の人のものである必要がある。

1.18 影 (Shadow)

大昔の人々は、人の影がその人の魂であると信じていた。そのため、人の影は踏んではならないとされた。影が傷つくと考えたからである。同様に、人の影の上

に落ちた石は急死の前兆であると見なされた。

悪魔と協定を結ぶ人は自分の影を担保として差し出さなければならない。そのため、悪魔と協定を結んだ人は鏡に自分の姿が映らないと考えられている。

クリスマスに暖炉のそばに座っている人の中に、もし頭の影が映し出されない人がいたら、その人は次のクリスマスまで生きられない。

1.19 皮膚 (Skin)

一般に、皮膚病は病気の終わりを示すと考えられている。病気が体内から外へ逃げ出そうとする兆候と見なされているからである。

魅力的な皮膚にしたければ、金曜日に毛皮を着てはならない。また、女性は、赤ん坊が最初に濡らしたおむつで皮膚を擦ると、顔の若々しさを保つことができる。

皮膚病の治療法としては、聖ヨハネの祭日⁷の朝にトカゲを食べるか草の上で転がる、オート麦の畑で全裸になって転がるなどがある。かゆみは每晚患部にカエルを置か唾液を使って治すことができる。

皮膚が荒れている子供は、爪を切ってもらってはならない。さもないと病状がさらに悪化する。また、爪にラードを塗るか、キャベツの葉の帽子の中で髪を整えると病状が改善すると言われている。さらに、灰色の口バの前で8日間続けて子供を持ち上げても同じ効果が期待できる。

1.20 歯 (Teeth)

歯に関して最もよく知られた俗信は、子供の抜けたばかりの歯を枕の下に置いておくと、夜中に「歯の妖精 (tooth fairy)」がやってきて、歯を持っていく代わりにコインを残していくというものである。

子供の最初に抜けた白歯は、体の中に隠れているかもしれない悪霊を焼き払うため、火に投げ入れた方がよい。

すでに歯の生えた子供が生まれてくるのは凶兆であり、その子供は将来殺人者になると言われている。また、最初の歯が上顎に生えてきたら、それはその子供が幼くして亡くなる前兆である。さらに、最初の誕生日までに子供が生やす歯の数は、将来の弟妹の数を知らせるものであるという言い伝えもある。

前歯の間が広く空いていたなら、その人は運がよく、繁栄とたくさんの旅行が保証されると考えられている。

アメリカでは、歯が抜ける夢を見るのは親戚の1人に死が迫っていることの前兆であると言われている。また、アメリカ人の中には、葬儀の鐘が鳴っている間に何かを食べると歯痛に悩まされることになる信じられている者もいる。

1.21 尿 (Urine)

尿は身体と超自然的な結びつきを持っている。それゆえ、魔女や他人に魔法をかけようとしている人の手に渡らないよう注意しなければならない。一般に、尿に唾を吐くか尿で手を洗うことにより魔法から身を守ることができる信じられている。

尿を飲んだり腫れ物に塗ることで、毒蛇に噛まれた傷、白癬、耳の潰瘍が治ると言われている。尿はまた、高熱で苦しんでいる人の未来を予測すると考えられている。患者の尿を採ってきて、その中にイラクサ (nettle)の葉を入れておく。もし葉が緑色になれば、その人は生き延びることができる。しかし、すぐに乾いてしまったら、治る見込みはない。

子供が尿の問題に悩むことがないように、名付け親は子供の洗礼式の朝に太陽に向けて放尿しなければならない。おねしょを治すための秘策もいくつかある。一般に、焼いたネズミを3匹食べれば治ると信じられている。また、押しつぶされたコフキコガネ (maybug)、ネズミやモグラの糞、あるいはオープンで焼いたナメクジを入れたペンダントを身につけるのも効果的である。

船乗りは風に向かって放尿してはならない。そのようなことをすると、悪魔が怒って嵐を引き起こすからである。

1.22 いぼ (Wart)

ヒキガエルの皮膚はいぼの主な原因と考えられている。それゆえ、ヒキガエルに触るのは避けた方がよい。また、卵を茹でた水に手を浸してもいぼができると言われている。

いぼを取るための方法についてはたくさんの言い伝えがある。例えば、いぼの回りに赤か黒の糸を結び、これから埋葬される人の墓の中へ投げ込む。リングを2つに切り、それでいぼを擦り、再び繋ぎ合わせておく。そうすれば、リングが腐るにつれて、いぼも消えていく。赤いナメクジでいぼを擦り、ピンで突き刺した後、縦坑の中に投げ込む。主の祈りあるいはアベ・マリアの祈りを唱えながら、聖水の入ったたらいの中に手を5回浸ける。こうすれば、次に聖水を受け取る人がいぼを引き継いでくれる。緑のえんどう豆でいぼに触れ、それを井戸に投げ込む。死んだモグラをいぼに擦りつけ、それを水の中に投げ込む。小川の近くの十字路に立ち、葬列が通り過ぎたら手を洗う、などがある。

イギリスのある地域の言い伝えによると、いぼを取る最善の方法は、肉を1切れ盗んで、それでいぼを擦り埋めることである。肉が腐るにつれて、いぼも消えてなくなる。

2. 数字

2.1 数 (Numbers)

古代からすべての数には特別な意味と力があると考えられてきた。また、偶数は割ることができるため、奇数よりも価値が低いと見なされてきた。そのため、奇数の方が偶数よりも縁起がよいとされる。シェイクスピアも『ウィンザーの陽気な女房たち (The Merry Wives of Windsor)』(第5幕第1場)の中で次のように記している。

This is the third time; I hope good luck lies in odd numbers. There is divinity in odd numbers, either in nativity, chance, or death.

これが3度目だな—3度目の正直といきたいね。さ、帰れ！奇数には神が宿る、生まれるのも、一か八か何かをやるのも、死ぬのも、奇数の日にかぎると言うじゃないか。⁸

数を数えるのは縁起がよくも悪くもある。縁起のよい例はいぼに対する治療法である。いぼの数を数えて見知らぬ人へ告げれば、いぼは消えてなくなる。しかしながら、自分のお金、子供、所有物を数えるのは縁起が悪い。そうすることで悪運を引き寄せてしまうからである。

2.2 1・2 (One・Two)

1は割ることができず、しかも1をかけても1のままであることから、縁起のよい数と考えられている。1はまた、神、知性、純粹、太陽と結びついている。月の最初の日に生まれた子供は冒険心に満ち、自立していて、幸運であると言われている。

2は1組を象徴するので幸運な数と考えられている。2はまた、善と悪、愛と憎悪、男と女、生と死といったようなさまざまな対立も象徴している。これらはすべて宇宙の均衡を描写するものである。

2.3 3 (Three)

3は常に神秘的な数と考えられてきた。誕生という奇跡が夫婦2人を3人に変えるからである。

3は三位一体⁹の数であり、また、他人を称賛する時に万歳三唱 (three cheers) を唱えることから、縁起のよい数でもある。

3の幸運な性質は「3度目の正直 (third time lucky)」という表現に表されている。2度の試みが失敗に終わった後でも3度目は成功すると広く信じられている。このことは、料金の支払い請求がなぜ3回行われるのかを説明してくれる。

3は幸運な数と考えられているが、悪いことも3回繰り返して起こると信じられている。3が悪い意味を持つようになったのは、聖ペテロがキリストとの関係を3度否定したことによると言われている。こうした「物事

は3回起こる (things happen in three)」という俗信のために、人々はもし2度の結婚式 (もしくは葬式) に2回続けて出席すれば、近いうちに3度目が起こると予測する。

2.4 4・5・6 (Four・Five・Six)

重要な事柄が4つで起こることから、4は最も縁起のよい偶数と考えられている。例えば、宇宙は4つの基本要素 (地 (earth), 風 (wind), 火 (fire), 水 (water)) から成り、4つの基本方位 (北, 南, 東, 西), 4つの福音書 (マタイ, マルコ, ルカ, ヨハネ) がある。また、トランプには4つの組札 (ハート, ダイヤモンド, クラブ, スペード) がある。

5は魔術的数字である。手と足には5本の指があり、人には5感 (視覚, 触覚, 味覚, 嗅覚, 聴覚) がある。キリストは磔刑で手足とわき腹に5つの聖痕を受けた。1から9までの数をすべて使った魔法陣 (縦・横・斜め, どの方向から数えても, その和が常に等しくなる数字配列表) では5が中央に置かれる。

4	9	2
3	5	7
8	1	6

立方体に6つの面があることから、6は調和と均衡の数である。6は3つの組と2つの三角形を象徴することから、奇数でもあり偶数でもある。月の6日に生まれた人は予知能力を持つと言われている。

2.5 7 (Seven)

7が幸運な数であるという考えは世界中に広まっている。また、7の特別な性質を示す例は豊富に存在する。例えば、古代の世界には7不思議と7つの惑星 (水星, 金星, 火星, 木星, 土星, 月, 太陽) があった。神は6日かけて世界を創造し、7日目を安息日とした。キリスト教では罪の源として7つの大罪 (傲慢, 嫉妬, 憤怒, 怠惰, 強欲, 暴食, 色欲) が指摘されている。1週間は7日から成り、虹は7色である。月は7日ごとに位相 (phase) を変える。人間の身体と心は7年ごとに更新されると信じられている。「7年目の浮気 (seven-year itch)」という考えはこの俗信に由来するとされる。

スコットランドでは、7番目の息子の7番目の息子は千里眼を持つと言われている。この特別な子供はまた、あらゆる病気を治すことができる、生まれながらの医者でもある。

もし誕生日を7で割ることができるならば、その人は非常に幸運な人生を送ることができる。

2.6 8・9・10 (Eight・Nine・Ten)

8は4の倍数であることから、物質性を表す。ノアの方舟で8人が救われたことから、8は生存を象徴する (『創世記』第7章第13節)。Behind the eight ballという

成句が困った状況を表すことから、8は時に負の数となる。

9も幸運な数と考えられている。そのため、治療や呪文でよく使われる。医者や喉の検査をする時、患者に「99 (ninety-nine)」と唱えさせる。猫には9つの命があると言われている。9は人間の妊娠期間の月数であり、神聖な数である3の3倍でもある。9はまた、どんな数をかけても、答えの各桁の数を合計すると、9もしくは9の倍数になる驚くべき数である。

10はモーセの十戒 (Ten Commandments) の数である。

2.7 13 (Thirteen)

13という数に対する恐れは13恐怖症 (triskaidakaphobia) として知られている。この恐れのために、多くの建物には13階がなく、ほとんどの航空会社は航空便や座席に13をつけるのを避け、多くの通りには13という番地のついた家がない。

キリスト教徒にとって13は最後の晩餐を連想する数である。晩餐にはキリストと12人の弟子が同席し、キリストを裏切ったユダが最初に席を立った人であると言われている。ここから、13人が座っている食卓から最初に立ち上がった人は、その年のうちに死ぬという俗信が生まれた。唯一の救済法はすべての人が同時に立つことである。

魔女の定期集会は伝統的に12人の魔女と悪魔から成る13人で執り行われる。

パン屋の1ダース (baker's dozen) は、13世紀のイギリスで量目不足の罰を恐れて本来の12個に1つおまけしてパンを販売したことに由来するが、合計が13個になることから、悪魔の1ダース (Devil's dozen) と呼ぶ者もいる。

しかしながら、アメリカでは13が縁起のよい数として扱われている。1ドル紙幣の裏面にはアメリカ合衆国の国璽 (great seal)¹⁰の図柄が2つ描かれているが、それらには多くの13が登場する。1方の図柄では、翼を広げた白頭ワシが左足に13本の矢、右足に13枚の葉のついたオリーブの枝をつかんでいる。またワシは、ラテン語で「多数から1つへ (E PLURIBUS UNUM)」と書かれた布をくわえていて、文字数は13である。さらに、ワシの頭上には13個の星が輝き、ワシの胸にある盾には13本の縞模様がある。もう1方の図柄には、13段から成るピラミッド型4角錐が描かれていて、その上にもラテン語で「(神は我々の) 意図をお認めになった (ANNUIT COEPTIS)」という言葉が13の文字で書かれている。すべてが13なのはアメリカが独立した時の州の数が13であったことによると考えられる。

おわりに

本稿では、英米に伝わる俗信の中から、特に「身体」と「数字」にまつわるものを取り上げて、その起源と内容を明らかにした。また、「身体」に関しては、必要に応じて治療法や防衛策についても解説を加えた。

注

- 1 魔術において、魔法円は聖なる浄化された空間であり、そこであらゆる儀式、魔術的作用、祭儀が執り行われる。(『魔女と魔法の事典』 p. 425 参照)
- 2 常に魔女に仕えている地位の低い悪霊。ふつう動物の姿をしていて、猫、ヒキガエル、フクロウ、ネズミ、犬などが最も一般的である。(『魔女と魔法の事典』 p. 256 参照)
- 3 1年中で昼間が最も長く、太陽が天空に最も高く昇る夏至は、実際には6月21日に当たる。しかし、中世以来「夏至祭 (Midsummer Day)」は6月24日、つまり、洗礼者ヨハネの誕生日に振り当てられている。「ルカによる福音書」(第1章第36節)によれば、洗礼者ヨハネはキリスト誕生の6か月前に生まれたとされており、このことから洗礼者ヨハネの祭日が「キリスト降誕祭 (Christmas)」の6か月前に定められた。(『イギリス祭事・民俗事典』 p. 250 参照)
- 4 キリストの昇天を祝う日。復活したキリストが使徒や信徒の間に40日とどまった後、この日に天に昇ったとされる。(『イギリス祭事・民俗事典』 p. 13 参照)
- 5 同じ韻を持つ行が2つ続いたもの。脚韻2行連句として用いられることが多い。
- 6 復活祭の前の金曜日。キリストの十字架上で死を記念する日で、教会暦上最も厳粛な祭日。教会の飾りつけはすべて取り外され、鐘は終日鳴りを潜めたままで、時に鳴ることはあっても弔鐘に似た調べを告げる。(『イギリス祭事・民俗辞典』 pp. 169-70 参照)
- 7 6月24日。この日は夏至祭が行われる日でもある。
- 8 松岡和子訳『ウィンザーの陽気な女房たち』ちくま文庫、2001より引用。
- 9 三位一体はキリスト教の神観念の最も特徴的なもので、教理の中で最も基本的、中心的な玄義 (奥義) の1つである。神はその本性においては1つであり、この1つの神の中に3つの位格 (persona、つまり父と子と精霊) があることをいう。(『哲学事典』 p. 551 参照)
- 10 国家の表象として用いられる印章。

参考文献

- Batchelor, J. F. and C. de Lys (1954) *Superstitious? Here's Why!*, Harcourt, Brace and Company, Inc., New York. (横山一雄訳『アメリカの迷信さまざま』北星堂書店、1962)
- Braysher, C. M. (1999) *Collins Gem Superstitions*, HarperCollins, London.
- 小泉直 (2012) 「英米の俗信 (1)」『愛知教育大学研究報告』第61輯 (人文・社会科学編) pp. 43-50.
- Lasne, S. and A. P. Gaultier (1984) *A Dictionary of Superstitions*. Prentice-Hall, Inc. New Jersey.
- Oliver, H. (2006) *Black Cats and April Fools*. John Blake Publishing Ltd, London.
- Pickering, D. (1995) *Cassell Dictionary of Superstitions*, Cassell,

- London. (青木義孝・中名生登美子訳『カッセル英語俗信・迷信事典』大修館書店, 1999)
- Radford, E. and M. A. Radford (1975) *Encyclopaedia of Superstitions*, Hutchinson, London.
- Waring, P. (1978) *A Dictionary of Omens and Superstitions*, Souvenir Press, London.
- Zolar (1996) *Encyclopedia of Signs, Omens and Superstitions*, Souvenir Press, London.

事典

- 『イギリス祭事・民俗事典』チャールズ・カイトリー著 渋谷勉
訳, 大修館, 東京.
- 『哲学事典』初版, 平凡社, 東京.
- 『魔女と魔術の事典』ローズマリ・エレン・グイリー著 荒木正
純・松田英訳, 原書房, 東京.

(2012年9月13日受理)